# 市民健診・特定健診特定保健指導委員会　鈴木　秀和

　生活習慣病の予防、早期発見、治療を促進しもって市民の健康の保持、増進をはかり、健康的生活の実現、並びに高齢者の生活機能の低下を予防するため、豊中市生活習慣病健診、及び特定保健指導があり、その健診と特定保健指導の業務を、豊中市医師会員である各先生方が豊中市より受託者として実施されています。

　さて、豊中市が中核市となり、独自の保健所をもち、健診、特定保健指導の医師会との実際の協議は豊中市保健所が窓口となりました。豊中市の特定検診受診率は現状では 30％であり、市町村国保全体での受診率 60％を大きく下まわっており、受診者を増加させるべく特定健診（個別）の運用見直しをされることとなりました。保健所からの申し出もあり、 10 月７日に医師会として「市民健診、特定健診、特定保健指導委員会」を開催いたしました。医師会より９名、保健所より５名が参加され、平成 29 年４月、新制度実施にむけて保健所側より　①特定保健指導の委託化について　②特定健康診査（個別）等の運用見直しについて　③糖尿病性腎症重症化予防事業の実施について　④健診異常値放置者受診推奨事業の実施について　⑤胃がん検診における胃内視鏡検査の導入について等、説明がありましたが、一度に変更されようとする内容が多過ぎ、また実施までの期間が半年を切っており、主に保健所側の説明のみで閉会となりました。その後、保健所と医師会役員との間で数回にわけて協議し、２月４日に豊中市医療保健センターで、医師会員及び医療機関職員対象の「特定健康診査（個別）等の運用見直し及び特定保健指導の委託に関する説明会」を開催し、豊中市保健所健康増進課及び一括して検体を取り扱われることになった阪大微生物研究会より説明があり、68 医療機関 71 名の参加がありました。

　今までは受検者である市民と実施機関である医師と豊中市の三角の関係でありましたが、新制度では検体業者とデーター処理される代行業者の五角の関係となるようです。検診の結果は受検後数週間を至て受診者に「結果報告書」が送付されること、豊中市単独のがん検診である大腸がん、前立腺がんの結果も「結果報告書」に反映されること等です。特定保健指導については、初回面接と６ヶ月後評価の２つについて実施される医療機関を現状より増やし、事前登録をお願いしたい旨であります。

　平成 20 年４月より１月市民検診が特定健康診査と後期高齢者医療健康診査に分別されたとき、当時の医師会月報に実施の要点を掲載していただいた前例があり、今回の運用見直しについて平成 29 年３月号に実施にあたっての要点を掲載していただきました。

　次に「胃内視鏡検査の導入に向けて」でありますが平成 28 年 10 月に保健所より各医療機関へ取扱いの可否等についてのアンケートがなされ、次に「導入に向けての準備としての検討会」を保健所主宰で平成 29 年４月より毎月１回開催し、対象年齢、受診間隔、撮影条件、精度管理、二重読影、安全管理、前処置、問診項目、インフォームコンセント等について協議予定です。これについても胃透視にかわるものとして、医師会が協力してまいります。

## 市民健康診査に関する事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検　診　名 | 形　態 | 平成 28 年度受診者数 |
| 市民健康診査 | 集団 | 385 人 |
| 個別 | 2,106 人 |
| 特定健康診査 | 集団 | 2,082 人 |
| 個別 | 14,555 人 |
| 後期高齢者健康診査 | 集団 | 532 人 |
| 個別 | 11,408 人 |
| 被用者保険（社保）健康診査 | 個別 | 3,098 人 |
| 胃がん検診 | 集団 | 2,180 人 |
| 個別 | 3,005 人 |
| 子宮がん検診 | 集団 | 923 人 |
| 個別 | 11,756 人 |
| 肺がん検診 | 集団 | 5,020 人 |
| 乳がん検診 | 集団 | 3,227 人 |
| 個別 | 5,061 人 |
| 前立腺がん検診 | 集団 | 1,341 人 |
| 個別 | 6,991 人 |
| 骨密度測定 | 集団 | 1,387 人 |